



## 版画から切り絵へ： 小さな生き物への 興味を作品に

いわた まいこ

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校  
美術工芸学科プリントメイキングコース  
2002年卒業



Web サイト

美専では、プリントメイキングコースにおいて、木版画、銅版画、リトグラフ、写真など、多岐にわたる「プリント」の技法を学びました。インクやシンナーのにおい漂う工房で、自由な雰囲気の中で作品制作に没頭し、先生方からは技法だけでなく、「物事をどう見るか」という視点についても深い教えを受けました。

卒業後、私は小売業界に足を踏み入れ、しばらくは作品制作から遠ざかっていました。しかし、機会を得て動物園への転職。

動物園での仕事は、展示物の制作や教育普及に関わるものでした。子供向けの行事の企画を担当する中で、クリスマスツリーの装飾ワークショップを手がけることになりました。紙とハサミを駆使して作成した切り絵の動物たちが、クリスマスツリーを彩りました。子供たちと一緒に手を動かす楽しさを再発見し、作品制作への情熱が再燃しました。



切り絵作品「2匹の金魚」

その後、動物園を退職、独立の道を選びました。今では昆虫や魚など身近な生物から、顕微鏡の下で観察したプランクトンのような微生物など、とりわけ小さな生物を切り絵作品の題材として制作しています。

出会いは偶然でしたが、私にとって切り絵は、生物の造形の美しさ、緻密さ、巧みさを見たときの驚きをそのまま表現するのに最適な手段となりました。



切り絵こけし「けし子ちゃん」シリーズ

現在は個展やグループ展で展示する作品の制作のほか、絵本の制作も行なっ

ています。2021年には初めての絵本「アリのメアリ」がBL出版より刊行されました。

はじめに「絵本作りませんか？」と編集者の方から声をかけられてから3年の長い道のりでしたが、ストーリーからラフ、完成まで苦しくも楽しい作業でした。



絵本「アリのメアリ」

切り絵は学生の頃に学んだ技法とは違う方法ですが、何枚もの紙を重ねていくプロセスに、時折版画との共通点を見出すことがあります。

近々プレス機を使う機会がありそうなので、版画にも再挑戦してみようと考えています。

推薦者／大阪芸術大学 美術学科 教授 日下部 一司



切り絵作品「アノマロカリス」